

(様式1) 実践事例

学校名	福島県安達郡大玉村立大山小学校	校長名	猪狩 仁		
住所	福島県安達郡大玉村大山字谷地1	児童生徒数	212人	学級数	12
TEL	0243-68-2929	ホームページアドレス	http://www.ohyama-e.fks.ed.jp/		

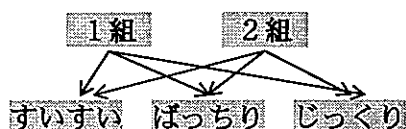
一人一人が力を存分に発揮する習熟度別学習に向けて

1 少人数指導（習熟度別学習の場合）の方針

- ◇ 算数科において、教科（単元）の特性を生かした習熟度別学習に取り組む。
- ◇ 担任による実態把握や見取りに基づいた助言や励まし、児童自身の単元に対する興味・関心から単元に応じた学習集団の編成を丁寧に行う。
- ◇ 「例題は全コースで学習する」、「主となる支援の手立てを授業者全員で考える」、「常に授業の様子を情報交換する」「単元に応じて各コースの授業者を変える」など組織的に習熟度別学習を行うようにする。
- ◇ 2学級を3コースに分け、担任と担任外教員が授業を行う。

2 実践の概要（5年 算数科 習熟度別学習の場合）

～単位量あたりの大きさ～



課題追究のための操作活動も一人一人がとても意欲的です。

- ① 等分除や平均について、既習内容の自己診断と単元学習の見通し、そして単元導入時の例題への取組からコースを選択する。
- ② 「すいすい」→答えの意味の説明，課題解決の質の向上（速さ・正確性）
「ばっちり」→答えの意味の理解，教科書問題の確実な解決
「じっくり」→答えを導く方法の理解，答えの意味のイメージ化
- ③ 課題の視覚化や積極的な操作活動の導入，高い知的好奇心と解決意欲を引き出す課題の提示も取り入れた習熟度別学習により，一人一人が課題追究にとても意欲的で，コースに応じた練り上げの場も多く見られた。

3 実践の成果と課題

- 単元に応じた学習集団編成の工夫は，学習意欲とともに「学習を創る一人としての役割の自覚」をもたせ，学習の充実（意欲の向上や課題追究の充実等）につながった。
- 組織的な取組により，学年全体の授業の流れや様子等をとらえながら授業ができたので，他コースとのつながりのある授業ができた。
- 分かる喜びを味わわせる機会を増やし，課題追究への意欲や持続力を高めた。
- 保護者や村学校支援地域本部から派遣された学習支援ボランティア等に対し，習熟度別学習の積極的な授業の公開を行い，その意図や方法を少しでも理解していただき，連携をさらに深めていきたい。また習熟度別学習について，保護者や児童等の評価を活用し，さらに効果を高めるようにしていく。